

# 1. 解 表 剤

発汗、解肌、透疹等の作用により、表証を解除する方剤を解表剤と総称している。

「素問」陰陽応象大論に、「ソノ皮ニ在ルハ汗シテコレヲ発ス」とあり、外邪が表に在る場合の治療原則は、発汗法である。

肌表は人体の最も外側にあるので、外邪が人を傷れば、一般に先ず表証を表わす。解表剤は主に外感病の初期に使用する。もし表証と裏証が共にある場合は表裏双解法を用いる。病邪が完全に裏に入り已せた階段には、解表剤を用いてはならない。

表証では脈は浮脈を呈し、舌は一般にあまり変化は見られない。

解表剤には、風寒表証（表寒）に対して用いる辛温解表剤と、風熱表証（表熱）に用いられる辛涼解表剤とがある。

## • 辛温解表剤

桂枝湯、麻黄湯、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷、小青竜湯、川芎茶調散、麻黄附子細辛湯。

## • 辛涼解表剤

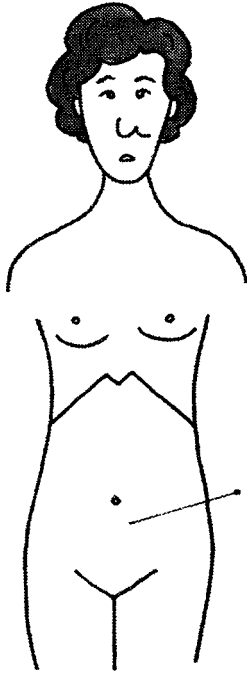
麻杏甘石湯、五虎湯、升麻葛根湯。

けい  
桂

し  
枝

とう  
湯

(傷寒・金匱)



腹部はやや軟  
特別な腹証を  
みとめないの  
が特徴

### 方 意

主に太陽病に用いられるが漢方の最も基本的な薬方で、衆方の祖と称されている。病位は太陽の経脈が侵された太陽の中風、すなわち表寒虚証用である。症状は軽く、皮膚は少し汗ばむ。脈は浮弱（緩）。舌は淡紅湿潤で無苔か薄い白苔。

### 診断のポイント

- ・ 悪寒発熱頭痛
- ・ 汗ばむ傾向（自汗）
- ・ 脈は浮で弱、或いは緩
- ・ 特別な腹証なし

### 原 典

太陽ノ中風、陽浮ニシテ陰弱。陽浮ナル者ハ熱自ラ発ス。陰弱キ者ハ汗自ラ出ズ。奮々トシテ悪寒シ、漸々トシテ悪風シ、翁々トシテ発熱シ、鼻鳴リ乾嘔スル者ハ、桂枝湯之ヲ主ル。（傷寒論・太陽病上篇）

太陽病、頭痛、発熱、汗出デテ悪風スルハ、桂枝湯之ヲ主ル。（同上）

病常ニ自ラ汗出ズル者ハ、此レ榮氣和スルトナス。榮氣和スル者ハ外諧セズ。衛氣以テ榮氣ト共ニ諧和セザルガ故ニシカラシム。

榮以テ脉中ヲ行キ、衛脉外ヲ行ク。復ソノ汗ヲ発セバ榮衛和シテ則チ愈ユ。桂枝湯ニ宜シ。（同・太陽病中篇）

### 処 方

ケイシ（桂枝）…………… 4.0g  
 シャクヤク（芍薬）…………… 4.0g  
 カンゾウ（甘草）…………… 2.0g

タイソウ（大棗）…………… 4.0g  
 ショウキョウ（生姜）…………… 1.0g

構成

君薬 臣薬 佐薬 使薬  
 桂枝 — 芍薬 — 甘草 — { 大棗  
生姜

註) これは汪昂『医方集解』に拠る。南京中医学院『方剂学講義』では棗・姜が佐、甘草が使としてある。  
 成無已『傷寒明理薬方論』では君薬は桂枝、芍薬と甘草が共に臣佐、生姜と大棗が使薬となっている。

方義

桂枝：辛甘温。発汗解肌作用、営衛を調和させる。(日本薬局方では桂皮を用いる。)  
 芍薬：苦酸、微寒。陰気を収斂し血脉を和す。芍薬は白芍薬を用いる。  
 甘草：甘平。汗剤に入れば解肌、抗利尿作用により津液を保護する。生甘草でなく炙甘草。  
 姜・棗：脾胃の機能を補養し、営衛を整える。

全体としては辛温解表の剤となっている。中風は発汗させすぎではいけない、ただ解肌して表邪を退散させる。本方はまた営衛を調和する主方であるから、外感病の他にも応用される機会が多い。

八綱分類

表寒虚証

効能

体力が衰えた時の風邪の初期。老人や身体虚弱な人のいわゆる「万年カゼ」症状。病後や産後の微熱や寝汗。

類方鑑別

麻黄湯：表寒実証。悪寒発熱が強く、無汗、体痛あり。脉浮緊。(太陽傷寒)  
 葛根湯：比較的実証。表実。無汗で項背強が著明。脉浮実。(太陽陽明合病)  
 五積散：虚証であるが、“経絡の中寒”の薬方であるから悪寒が強い。  
 香蘇散：虚証で、胃腸が弱く、気うつ傾向のある人の風邪症状。気滞感冒。  
 参蘇飲：虚証で、脾胃虚弱痰飲を伴う人の風邪症状。気虚感冒。  
 麻黄附子細辛湯：元気に乏しく発熱は少なく悪寒が強い人の風邪。脉は沈弱。陽虚感冒。